

The Importance of Left Ventricular End-Systolic Diameter for Aortic Valve Replacement in Japanese Asymptomatic Patients With Chronic Severe Aortic Regurgitation

Circulation Journal. 2024 May 31.

doi: 10.1253/circj.CJ-24-0342.

本邦におけるガイドラインでは、無症候性重症大動脈弁閉鎖不全症に対する手術適応はLVSED>45mmでClass II a 推奨となっていますが、その根拠となるデータは主に欧米人（日本人より体格が大きい）を対象にした研究に基づいており、日本人を対象にした研究から得られた科学的データが待ち望まれていました。滋賀医科大学心臓血管外科の鉢呂先生らの論文【Long-term outcomes after aortic valve replacement for aortic valve regurgitation: the importance of left ventricular end-systolic diameter】はLVESD cut-off 値 42.8mm を算出し、現在のガイドラインよりもより早期に手術を行う必要がある可能性を示した非常にインパクトのある内容です。この論文に対して本論文を Editorial Comment として投稿させていただきました。